

会 議 議 事 録

会 議 名	令和4年度 第2回 学校関係者評価委員会	専門学校 東京工科自動車大学校
開催日時	令和4年 11 月 10 日 (水) 18:00 ~ 19:00	
会 場	専門学校東京工科自動車大学校 123教室	
参 加 者	委員 (敬称略)	7名 浅古純一・木村友子・荻野嘉彦・鈴木賢司 ・森田憲・嶋田章二・吉本敏久
	事務局	3名 佐々木章・松村道隆・園田幸祐
会 議 録	<p>1. 校長挨拶</p> <p>・開催に向けて校長佐々木より挨拶が行われ、当校のコロナ関係事項について報告、説明があった。</p> <p>2. 委員会成立の確認</p> <p>・事務局より参加者の確認が行われ、委員7名中6名出席、1名の遅刻で本委員会の成立が承認された。</p> <p style="padding-left: 2em;">出席6名、遅刻者1名のため、委員会成立を宣言</p> <p>3. 議長及び書記選出</p> <p>本委員会の成立を受け浅古委員が委員長として立候補、承認された。また、書記として木村友子委員の承認が得られた。</p> <p>4. 議事</p> <p>①前回議事録確認(松村)</p> <p>事務局松村より前回議事に関して説明がなされ、各委員からの承認を受けた。</p> <p>②コロナ禍における取り組みについて(園田)</p> <p>園田 1 級科長より、コロナ感染防止に関する取り組みについて説明があった。</p> <p>③R4年度の取り組みに関する進捗状況(園田)</p> <p>園田 1 級科長より以下の報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4事業計画進捗状況 ・就職内定状況 ・企業連携実習 ・教職員研修 <p>④文部科学省委託事業 報告(佐々木)</p> <p>佐々木校長より、今年度の文部科学省委託事業、AR教材開発、高専連携プログラム開発について説明があった。</p> <p>⑤2022 年度 学校関係者評価委員会スケジュール(事務局)</p> <p>事務局より今年度の自己点検評価スケジュールについて説明があった。</p> <p>⑥その他 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(浅古議長)自動車業界の将来が不安であること。 	

このまま外国人の整備士が増えることを危惧している。とても真面目で良い外国人も多いが、最終的には自国に戻ってしまい、日本の将来をけん引してはくれない。

日本の自動車技術は世界一であるのだから日本人の整備士を増やしたい。

たとえば大学卒業者をターゲットとするのはどうか。ハイレベルの大学以外は良い就職先がない現状から、大卒者は学費を割引するなどの施策をして、この業界を保っていきたいと思う。

・(嶋田委員) 現在東京スバルでは整備士 300 名のうち 100 名が外国人となっている。そのため日本人を増やすために奨学金を検討している。ただ学費を支払うのではなく、公的奨学金(日本育英会等)の奨学金を肩代わりすることで長く勤めて頂くようにしたい。

・(森田委員) 技術者に対する国のバックアップ体制が変わり、貸借契約によらない方法ができるようになった。これを活用したい。

・(鈴木委員) エンジンのオーバーホールやブレーキの分解など、以前は整備作業に魅力があったが、最近はブレーキパッド交換も不要となるくらい作業が少ない。あってもパーツ交換。どうしたらよいか悩んでいる。

・(吉本委員) 国土交通省の役人が高校周りをして整備の魅力を伝えたが、効果の程は発表されていない。形だけで終わっているのではないか。自分の整備工場では、自家用車以外に高所作業車などの特殊作業車整備が増えているが、整備士不足で引き受けられず、断っているのが現状である。

・(荻野委員) 地域代表の委員としては、中野区総合防災訓練に協力して欲しい。

・(木村委員) 学校嫌いだった息子が毎日楽しそうに通学している。大変嬉しく思う。

最近クルマで遊びに行くことが多くなったので、少し不安を感じている。

→学校としては、これからも学生に良い教育をおこない、自動車業界の発展に寄与する考えである事を返答した。

5. 事務局より、年度末の自己点検評価について説明があり、閉会となった。

以上

会議風景

